

「IBTEC 2009」レポート

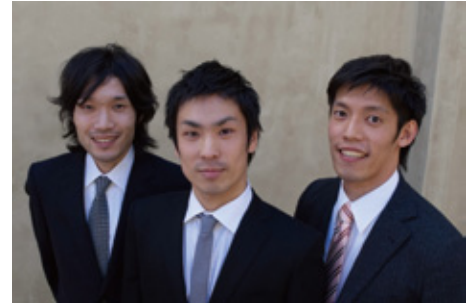
Intel + UC Berkeley Technology Entrepreneurship Challenge

町野 明德

東京大学 大学院 理学系研究科 修士課程

IBTEC 2009 に出場

2009年11月17日～19日の3日間、インテルとUC Berkeleyが主催するIBTEC (Intel + UC Berkeley Technology Entrepreneurship Challenge) に参加してきました。IBTECはテクノロジーをベースとしたビジネスプラン・コンテストで、今回の大会で5周年を迎えています。今年は世界18カ国から27チームが参加し、UC Berkeleyにて、互いのビジネスプランを競い合いました。参加したチームは、すでに会社を起こして収益を上げているようなところから、私のチームのようにまだ起業していないシードステージのところまで、さまざまなバックグラウンドのチームが集いました。



イベントの詰まった3日間

1日目、世界中から集まったチームと一緒に昼食を取ることから始まり、プレゼンテーションの予行をし、そのフィードバックをいただいた後、実際に起業した方たちの話を聞かせてもらうワークショップなどがありました。2日目はセミファイナルで、実際にベンチャーキャピタリストの審査員の前でビジネスプランの発表です。審査員の方たちからいただいたアドバイスは非常に勉強になりました。3日目にファイナリストによる発表が行われ、その夜に、レセプション・結果発表がありました。参加チームは3日間 UC Berkeley 近くのホテルに宿泊し、夜はほかのチームと一緒に飲みに行くなど、貴重な交流をすることができました。

ソーシャルラーニングで教育を変える！

私のチームが発表したプランは、教育系のWebビジネスです。近年のWebの急速な発展によって、ニュースや動画、写真、日記、料理のレシピまで、さまざまな情報がWeb上で共有されるようになっていますが、いまだアカデミックな情報の共有はWeb上で十分になされていません。例えば、数学の勉強をしている学生が、ある問題で詰まってしまうとしても、現在のWebでは役に立たないことが多いのです。教育コンテンツには、数式やグラフなど、Web上で扱いにくいものが多く含まれているのがその原因で、私たちは、それらを扱う独自技術を武器に、Webを活用した「ソーシャルラーニング」を推し進めていきます。

受賞は逃すも、貴重な体験を得る

私たちのチームは、残念ながら受賞することはできなかったのですが、非常に貴重なフィードバックを得ることができました。技術・アイデアは素晴らしいと言ってく一方、収益モデルの弱さを指摘されました。Webサービスの収益モデルは、広告やプレミアム課金がメインになるのですが、教育分野において、それらだけで十分な収益が上げられるかが今後の課題です。また、世界の優秀なチームのプレゼンテーションを見ることができたのも素晴らしい体験でした。優勝したのは中国の清華大学のチームですが、生分解性の医療用ネジという素晴らしい技術だけでなく、綿密に練られた説得力のある事業計画は非常に勉強になりました。

今回の体験をもとに次のステップへ

今後、IBTECで得た経験・フィードバックを元にプランをブラッシュアップし、実際に事業化を目指して邁進したいと思っています。最近のWeb業界では、ソーシャルグラフ (Web上の人のつながり情報) を活用した「ソーシャルゲーム」の分野が盛り上がっています。ゲームも面白いですが、私は、今後「ソーシャルラーニング」の時代がやってくるという確信を持っています。今回の体験を元に、社会にインパクトを与えられることを実現していきたいと思います。

今回のIBTECへの参加はインテルのご支援あって実現しました。素晴らしい経験をさせていただき、誠にありがとうございました。